

不審者に遭遇した場合の自身の対応をいつも想定しておきたい

本日の避難訓練は、突然の不審者侵入を想定したものでした。

本校の施設状況の場合、児童の被害を防ぐには、教室で施錠して待機することが最も安全だと考えます。本日はその対応を確認した訓練でした。

本日は実施しませんでしたでしたが、時間に余裕がある場合には、校舎入り口の鍵を閉めることも必要だと思います。

今回は、玄関からの不審者侵入を想定しましたが、実際には、玄関から入ることはほとんどないでしょう。児童校舎昇降口から入ってきて、教室のドアをいきなり開け、児童に切りつけ始める可能性が高いと思われます。

そのような場合も、本日の訓練の基本を応用し、以下の対応をとりましょう。

- ①何らかの方法で、事務室に連絡する。
- ②警察に通報する。
- ③全校に知らせ、各教室で施錠して児童を守る。
- ④男性陣は、武器になる物を持って駆けつける。
- ⑤児童への接近を絶対に防ぐ。
- ⑥警察が駆けつけるまでの数分間、身の安全を第一にしながら時間を稼ぐ。

教室周辺で、危ない不審者に遭遇した場合は、とにかく大声を上げ、周囲の教職員に気づいてもらうしかありません。誰かが気づいたら、児童の避難、連絡を瞬時に分擔します。

自分のいる場所で遭遇した場合のとっさの行動を、時々思い巡らすことが大切かと思しますので、これを機会にご自身で様々な状況を想定してみてください。

訓練直後に、学校安全サポーターの方から指摘された内容をお知らせします。

○不審者が土足であった場合は、明らかに暴力行為をする可能性が高い。その場合は、初めから犯罪者として強硬に対応すること。

丁寧な対応をして近づきすぎることは自殺行為となる。相手との間をとること。

○犯罪者対応の際は、自分の命を守ることを最優先し、一旦逃げて「武器(物)」を持って対応すること。今日の対応では、みんな刺されていた。

○さすまたは、相手を押さえつけるよりは、先を相手の顔に突きつけ、威嚇に使う方がよい。ほうきの柄などの長い物も有効。多人数で、長尺の物を突きつけるのが有効。

○犯罪者は、覚悟を決めていることが多く、複数の凶器を持っていることが多い。持っているナイフをたたき落ととしても、安心して拾わないこと。2つめの凶器でやられることもある。

○犯人はすぐに逃走することも多い。他所での被害を防ぐためにも、人相等をよく把握し、警察にできるだけ詳しく伝えること。

○本日のように玄関から堂々と入ってくることは少ない。校舎入り口等で突然遭遇する。近くの教員でどれだけとっさに連携できるかが大切。失敗してもいいから、いろいろと実戦訓練を重ねるしかない。

○管理職や事務室職員だけでなく、誰もが警察に連絡したり、校内放送をかけたりできるようにしておきたい。

○110番通報を躊躇しないこと。間違い(保護者の一人だった等)であったら、それを知らせてもらえば済む。

○さすまたの場所を全職員で把握しておく。それに代わる物もあらかじめ考えておきたい。

○教室の施錠が遅い学級があった。できるだけ早急に施錠すること。

※その他、訓練中に感じたこと(今後の課題)

- ・体育館への二次避難の必要性と意味(どこで安全の確認をするか)
- ・職員の安全の確認(特に7年組)。職員の人數把握(日々總數が異なる)
- ・補助教員や給食室職員の避難